

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
エンドオブライフケア学実習Ⅲ (地域包括ケアの実践)	2	後期	2	実習 90時間
担当教員	長江弘子、青山美紀子、那須真弓、山田案美加			
授業概要	プライマリケア看護の実践能力として一次予防を担う行政保健におけるあらゆる発達段階にある人と家族を対象とした疾病予防、健康増進に向けての健康教育、健康相談、生活指導を実践する。また地域アセスメントを通して地域の健康課題を明確化し、保健事業としての各種検診、予防接種の必要性のアセスメントと実施、評価、疾病予防や管理に関する相談支援や専門的医療機関への紹介など一次医療につなぐ有機的ヘルスケアシステムの構築を目指し実践する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の健康課題を明らかにし、その解決に向け、保健医療福祉の専門職及び住民等との協働連携ができる。 2. 地域の保健所の相談や検診を受診する様々な健康レベル(予防、急性期、回復期、慢性期、終末期)にある小児から高齢者に対し、その地域の健康課題に応じた特徴的な困難事例や実践課題を導き出し、プライマリ・ヘルス・ケアを基盤とした高度な看護援助の工夫や開発ができる。 3. エンドオブライフケア看護実習Ⅰ及びⅡでの学修に基づき地域における保健・医療・福祉の現状を比較し、他の地域の共通性と相違性とその背景について説明できる。 4. 地域の健康課題の解決に向けて、新しいサービスの企画を提案することができる。 			
履修条件	特になし			
授業計画	<p style="text-align: center;">内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 既存資料や地区路査を通して、地域アセスメントを行い、地域の健康課題を明らかにする。実施されている保健事業の必要性のアセスメントを実施、評価と改善点について考察する。 (2) 地域の健康課題の中でエンドオブライフケア上の困難事例や実践課題(1事例以上)に関して、保健所、区役所、ならびに地区担当保健師との情報共有を徹底し、相談・調整を行い、実践する。 (3) 担当事例の看護援助として、問診やヘルスアセスメントによる情報収集・アセスメント、看護計画の立案、実践、評価を行う。この一連の過程は、課題解決するまで繰り返し実践する。この実践課程を要約しケースレポートとしてまとめ、カンファレンスで報告し省察的実践と評価を行う。実習期間中に課題解決できない場合は、看護師又は保健師に引き継ぐ。 (4) 事例を通して既存のサービスでは対応できないニーズに対し、新しいサービス事業について考案し企画、提案する。 (4) 実習記録として「アセスメント表」「看護計画」を作成し、実践した内容を記録する。 (5) 比較するほかの地域(これまでの実習地域)を選択する。 (6) カンファレンスを開催し助言を得る。 <ol style="list-style-type: none"> ①実習カンファレンス：主任保健師、実習指導教員等による中間・最終カンファレンス ②全体カンファレンス：中間カンファレンス(大学内の各領域の教員)・最終カンファレンス(看護管理者施設の実習指導者など) (7) 本実習のまとめとして「実習レポート」(到達目標に沿う)を提出する 			
教科書				
参考書				
評価方法・基準	<p>実習最終日に臨床指導者・担当教員とともに、まとめのカンファレンスの内容を評価する。</p> <p>学生は主体的に実習担当教員と実習指導者を調整し、指導の下に計画、実施する。但し、到達目標を達成できない場合は実習期間を延長する。</p> <p>事前学習(20%)、実習内容(50%)、レポート(30%)で総合的に評価する。</p>			
事前・事後学習	事前を示した資料を読んでおくこと。事後には講義で学んだ技術を実習で応用してみる			
備考	<p>【実習場所】 鴨川市総合福祉会館(ふれあいセンター)</p> <p>【臨床指導者】 高橋由希子(主任保健師)、笹子洋子(保健師)</p>			